



鈴木ひろむ 後援会だより



東北大震災で被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々に衷心より哀悼の意を捧げます。選挙後の最初の議員だよりです。皆さまに私の議員活動や考え、また市政の状況等お伝えしていきます。ご愛読よろしくお願いいたします。

■復興作業が心配です

3.11の東日本大震災や東京電力福島第1原子力発電所の事故から既に5ヶ月が経とうとしていますが、復興の姿がなかなか見えてきません。阪神大震災の場合は大きな重機が全国から集まり、倒れた高速自動車道を一気に片付けていましたが、そのようなダイナミックな動きが見えないような感じがします。財源が決まらなく発注できないのかと思いますが、とにかく政府は現実に即した復興方針を早急に決定すべきです。そして被害に会われた皆様が1日も早く通常の生活に戻ることができるよう心より祈っています。

■地方の力を見直したとの声

今、この震災、事故の対応では国の迷走ばかり目立ちますが、5月に行われた地方自治経営学会の研究大会に参加したところ、逢坂誠二総務大臣政務官や増田寛也元総務大臣たちが自治の力はすごい、地方自治体の強さが見られるということをよく語っていました。震災の後の地域に密着した地方自治体首長の奮闘、市民一人一人に丁寧に対応できる職員、冷静な市民の姿等に中央の多くの人々が地方を改めて見直した訳です。

■国と地方の新たな関係作り

こうしたことから地方のことは地方に任せた方がうまくいくという認識が高まれば、なかなか進まない地方分権が大きく進む可能性があります。復興作業が進められていく中、地方のことは地方に任せ国が何にでも口を出すのではない国と地方の新たな関係が模索されれば地域に根付いた住民主体の地方自治が生まれてくると思います。そしてこのことが日本が再び活力を持った国になることに繋がっていくと思いますが、とにかく国と地方が新たな協調関係のもと力を合わせスムーズに復興を進めて欲しいものです。

後援会事務所で集まった義援金3万円は日本赤十字社を通して被災地へおくりました。ご協力ありがとうございました。

6月定例会が開催されました。

大震災の中で選挙が行われ、当選後もなんとなく清々しないもやもやした気持ちが続いていましたが、6月17日より7月5日まで6月定例会が開催され、一般質問を行いました。

質問1 東日本震災後の電力危機に対する富士宮市としての新エネルギー政策について

この質問では主に震災後の電力危機を契機に、これまでのエネルギー政策また環境政策に更に力強く取り組み「富士山に相応しいクリーンなエネルギーの活用による、持続可能な循環型社会」を実現する実験公園を作れないか提案しました。

「新エネルギーの普及を促進するためには、新エネルギー設備を公園等に導入設置し、市民の皆さまの目のつきやすいところで、実際に触れてもらうことが有効な手段。今後他市の事例を参考に、経費や費用対効果を踏まえた中で公園等への新エネルギー設備の設置について調査・研究をすすめていきたい。」という答えでした。

■山梨県側に負けない!

富士山に抱かれたまちとして自然を大事にする、環境に配慮するという点で他に先んずべきという思いでの提案です。富士山観光では山梨県側に多くの点で負けてしまっている。山梨県側では朝から晩まで観光バスがブンブン排気ガスを出して大勢のお客さんを5合目まで運んでいけばいい。しかし静岡県側は違う。富士山に畏敬の念を抱き富士山に抱かれている人々が、自然を汚さない負担をかけないという生き方をしているまた模索している。そしてどの市町村よりも自然を大切に、環境に配慮しようと模索またトライする場が実験公園なのです。山梨県側とは姿勢が違くとクリーンさを大きくアピールできるはずです。

富士宮市は平成7年度から太陽光発電に助成してきた歴史があります。また平成17年には「新エネルギービジョン」で新エネルギーの普及計画を策定し、平成18年には「環境基本計画」を策定し循環型社会への取り組み計画を策定しています。実験公園らしき物もその中に描かれているのです。それらが財政危機に直面してすべて頓挫してしまった。方向性は第4次総合計画には引き継がれてはいますが、この震災を機に再びそれらの個別計画を見直し力強く取り組むべきという思いでの質問でした。

■サイエンスバージ

この実験公園は先例がありまして、小堺一機のニューヨークエコ歩きという番組で紹介されていました。ハドソン川に「サイエンスバージ」という一艘の船が浮かんでいます。直訳すれば科学の船ということですが、地球資源の再利用を考える教育実験施設。太陽光、風力発電、バイオ燃料、雨水、川の水を使って、CO2を排出せず船の上で野菜栽培や飼育をして自給自足を目指す試みをおこなっています。NPOにより運営されていて、地元の子供達が環境教育を学びに来たりNYエコツアーの場にもなっているそうです。

この実験船を思い浮かべて富士宮市に実験公園を提案した訳です。資金を掛けずに実現できる事業です。須藤市長の目玉事業になりえると思います。更に提案を続けていくつもりです。



質問2 住民データや重要な資料等のバックアップ体制について

東日本地震において庁舎が大被害を受け、戸籍や契約書が失われた例が多くある。富士宮市の住民データや重要な資料等のバックアップ体制はどうなっているか問いました。

「コンピュータで処理している業務データは、毎日情報政策課マシン室に保管している。マシン室は耐震・防火構造になっており、三月十五日の地震においても物の落下や機械の転倒はまったくなかった。しかし、万が一の場合を想定し、一ヶ月に一度、名古屋市のNTT西日本東海安全保管センターに磁気データを遠隔地保管している。戸籍についても一年に一度戸籍データの

副本を法務局に提出している。完結した文書は本庁地下一階の集中書庫に保存している。集中書庫は防火扉を備え、ハロゲン化物消化設備が施されているので、保存については問題ない。」という答えでした。

バックアップ体制は万全ということです。バックアップのための場所が必要ならば、芝川の保健福祉センターが使えるのではないかと主張しようと思いましたが、残念ながらこれは断念です。保健福祉センターの活用については引き続き検討中です。

質問3 史跡「大鹿窪遺跡」のこれからについて

3月に史跡「大鹿窪遺跡」の保存管理計画が策定されましたが、今後の具体的な整備計画を問いました。

「さらなる継続的な発掘調査を行うなかで史跡公園の整備やその活用を検討していく。本格的な整備に至るまでの管理において案内板と遊歩道等を備えた芝張り保存等の方法について検討していきたい。」という答えでした。ただし本年度の予算は東北の震災のため計上されないため来年度以降の計画になるということです。

現在芝川会館3Fでこれまでに発掘された土器の調査が行われています。縄文初期の遺跡としては類のない数の多さだそうです。

質問4 芝川図書館について

6月13日までに、約4千人の方に約12,000冊の貸し出しがなされました。以前の4倍。新規登録者数は185人でした。

両方の道路側に看板を設置するよう要望しました。多くの皆さんにご利用いただき、図書館が賑わうよう願っています。

6月定例会トピックス

■清掃センターに剪定枝処理チッパーが設置されました。ごみに出せない大きな枝など持ち込めば無料で処理します。処理され生産されたチップは無料配布されます。

■スズメバチの駆除に5,000円を上限に助成金が出るようになりました。

■ブロック塀撤去の費用が100,000円を上限に助成されます。

本年度は枠が増えています。

鉄筋の入っていない耐震性のないブロック塀、石垣の撤去に是非ご利用ください。

■鳥獣害監視員が配置されました。目撃情報、相談、被害等、農政課へご連絡を。



政務調査に行ってきました。

7月に宇部市の環境政策とバイオマス事業、益田市の給食センター計画、松江市の松江歴史館の調査に行ってきました。ここでは松江歴史館の報告をします。

松江歴史館は本年3月にオープンした松江市の観光施設。1607年、松江城と城下町の建設が始まった以降の松江藩政や城下町の形成、城下の人々の暮らし、藩財政を支え松江を全国有数の富裕藩にした産業などを展示している。実物資料を展示するほか、映像や音声を使い分かりやすく紹介している。



市長の願いで建設された施設。建設費用は39億円で、全額電源立地地域対策交付金(原弁)による。23年度の電源立地地域対策交付金は約23億。

この施設の年間経費は1億2千万。15万人の入場者を目指し入場料収入6千万、物品売上800万、約5千万の持ち出し。3年後に指定管理者制度を取り入れる予定。

5千万の年間出費は大きな負担と思えるが、多額の交付金を得ている当市にとっては大きな問題とは考えていないように思えた。市内は観光のまちとして充分整備されており、松江城、堀川めぐり等と合わせ、新たな観光名所により市内の観光の魅力が増し観光客が増え、観光業者が潤えば効果はありということです。

今の松江は平成17年3月31日鹿島町、島根町、美保関町、八雲村、玉湯町、宍道町、八束町の8市町村が合併して誕生した。それまでの松江の一般歳入は610億、内地方交付税97億、合併後は920億内地方交付税は220億。依存財源比率は58.4%となっている。もともと90億の地方交付税が合併後は220億というのには驚いた。また公債費は143億もある。そうした中で新たな年間経費5千万を要する施設の建設は富士宮市においてはとても許されないと思うが、松江においてはそうではないことだ。松江は富士宮市よりも余程恵まれた生活をしてきていたと察せられる。そこには国から地方への支出に大きな差があるからだ。富士宮市の未来にとってこの点を改めて研究する必要があると痛感しました。